

安曇野市公民館報

安曇野市
中央公民館
No.18 2014.6.4
TEL62-4565

公民館長決まる 協働のまちづくりに向けて新体制スタート

4月1日付けで公民館長が任命されました。

▼徳高公民館長 中田光男(新任) ▼三郷公民館長 千國温(再任)

▼堀金公民館長 平倉重則(再任)

任期はそれぞれ2年で、公募により選考されました。

なお、明科公民館長の任期は10月31日まで、豊科公民館長の任期は2015年7月31日までです。

中央公民館長あいさつ



中央公民館長
蓮井 昭夫

中央公民館長につきましては、従来5公民館長の内から、お一人に兼務していただいておりますが、この4月の機構改革により、教育部生涯学習課長がその任に当たることとなりました。

今回の機構改革は、各公民館の職員を市民生活部各支所地域課地域担当職員とし、公民館活動も含めた地域のまちづくりを推進してゆくことを目標としています。

また、各公民館および体育施設において、耐震・改良工事が実施中、または、計画作成段階であります。市民の皆さまにはご迷惑をおかけしておりますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

これらの事業の推進にあたり、中央公民館長に職員をあて、総合的に調整・推進してまいります。

微力ではありますが、安曇野市の「公民館活動の活性化」および「地域まちづくりの推進」にあたる際は「潤滑油」として、またあるときは「接着剤」として精一杯頑張りますので、皆さまのご支援とご協力をお願い申し上げます。就任のあいさつといたします。

地域の生涯学習・まちづくりの拠点としての公民館



徳高公民館長
中田 光男

このたび、徳高公民館長を拝命し、安曇野市の生涯学習とまちづくりの推進の一翼を担わせていただくことになりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

社会環境の大きく変化する中、大震災も契機となり、身近な地域での絆の大切さが住民の間に再認識されつつあります。これからの公民館は今まで以上に地域に目を向け、生涯学習とまちづくりの拠点としての役割を果たしていく必要があると思います。

地域の生涯学習の拠点という観点では、公民館は市民の一部の方々にしか利用されていないという現状から「男女問わず、青少年・子育て世代・働く世代・高齢者に至るまでの幅広い世代の居場所として、また学習や体験活動の場としての機能をもつ公民館」という方向を目指して努力していく必要があると思います。

また、まちづくりの拠点という観点では、安曇野市の進める「協働のまちづくり」のために、公民館として果たすべき大切な役割は「住民が地域を愛し心豊かな幸せ

な生活を送るための支援をしていくこと」、また、「実現に向けての住民の自立と主体性を喚起するための支援をしていくこと」ではないだろうかと考えます。
理念としては以上のように考えております。2年の任期の中で何ができるのか、どのくらいできるのか未知ですが、微力ながら一杯努力してまいります。市民の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。就任のあいさつといたします。

穂高公民館 リニューアルオープン

穂高会館公民館棟の耐震補強改修工事が終了し、6月1日から市民の皆さんの利用が開始されました。

リニューアルした穂高公民館は、屋根、外壁、内装、電気設備、給排水設備等の更新のほか、車椅子利用者が気軽に利用できるよう、講堂南北に専用の入口を設置しました。また、既存のスロープを改修し、1階の会議室も利用しやすくなりました。なお、現在は体育館棟の工事が始まっており、一部利用できない箇所がありますのでご注意ください。

また、公民館棟北側には50台の駐車スペースが新設されましたので、公民館の利用時には、新設駐車場をご利用ください。
穂高公民館 画82・5970

山門にある金剛力士(仁王)像はわずかに残った仏像の一つで、鎌倉時代の写実的な作風が良くを失いました。



仁王像

明科南陸郷区小泉の神谷地籍で国道19号を長野方面に向かって左折し、中山山地を登った金井沢集落の大穴山頂近くに泉福寺があります。

寺伝には寿永2(1183)年に木曾義仲が開基と記されていますが、平安時代後期には、このあたりが大穴庄として藤原氏の庄園となっていたことから、その頃までに庄園の祈願寺として建てられたものと考えられます。

泉福寺は、徳川幕府から朱印を受け七堂伽藍を容する大寺でしたが、江戸時代後期の山崩れと火災により伽藍、什具宝物、古記録などの多くを失いました。

く残り、筋肉の盛り上がりや衣文、像全体の動きにかなりの迫力が秘められており、軀軀のバランスも良く、かなり技量の優れた仏師の作と考えられます。

阿形像は像高197.7センチ、吽形像は像高194.5センチ、ともに桧材を用い、体幹を耳の後ろで前後に割り離し、内側を割り抜いた後で再び矧ぎ合わせる矧ぎ造りで、力強い構えをした両腕や、前に大きく踏み出す脚など、筋肉の盛り上げに鎌倉様式の写実的な力強さがよく表れています。

製作年代は像に造立時の墨書銘が見られず分かりませんが、鎌倉様式の特徴が色濃くみられること、永正10(1513)年の修理銘が残されていることから、少なくとも室町時代初期にさかのぼることは確実で、県内に残る仁王像でも年代、出来栄ともに5本の指に入る優れたものです。2004年11月に県宝指定を受けています。



阿形像

⑬ 泉福寺 金剛力士(仁王)像(県宝)

古きを尋ねて

は、歌人岡麓氏の書体とともに、全国の上戸に親しまれる。バスを降りて早々、馥郁たる香りがいずこからともなく一同を包んだ。同社専務・薄井結行さんの案内で、安曇野の伏流水を用いたその工程の詳しい説明を受けた。「酒造りの熱意に感動した」と皆さん大満足の感想であった。

ほたか 酒造りの歴史を知る

3月1日、文化講座「日本酒の歴史と魅力」が穂高公民館主催で開かれ15名が参加した。

池田町にある明治31(1898)年創業、大雪渓酒造棟に向かった。「大雪渓」



各工程現場をまわり説明を受ける

は、歌人岡麓氏の書体とともに、全国の上戸に親しまれる。バスを降りて早々、馥郁たる香りがいずこからともなく一同を包んだ。同社専務・薄井結行さんの案内で、安曇野の伏流水を用いたその工程の詳しい説明を受けた。「酒造りの熱意に感動した」と皆さん大満足の感想であった。



3種の銘柄と甘酒を試飲



みちしるべ



絵：加々美 豊
花：ウグイスカズラ

和の心を大切に「縫衣の会」



一針一針丁寧に

月3回、明科公民館で布やはさみを手に運針に心を込めているのは「縫衣(ぬいころも)の会」(内川悦子会長)の12人の皆さん。和やかな雰囲気の中、自分で身に着たいはなんてんや帯、じゅばんなどを1枚の布や端切れから形に整えていく。普段着から訪問着

万人巻首

廻り道歳を重ねて歩く今
君の気持が私を包む
角とれて丸み帯びたる鯨尺
和裁好みし母のなつかし

住吉 児嶋 たかの

〒399-7102
安曇野市明科中川手 2914 番地 1
教育部生涯学習課内
公民館報編集事務局 宛
TEL.62-4565 FAX.62-3525
E-mail:shogaigakushu@city.azumino.nagano.jp

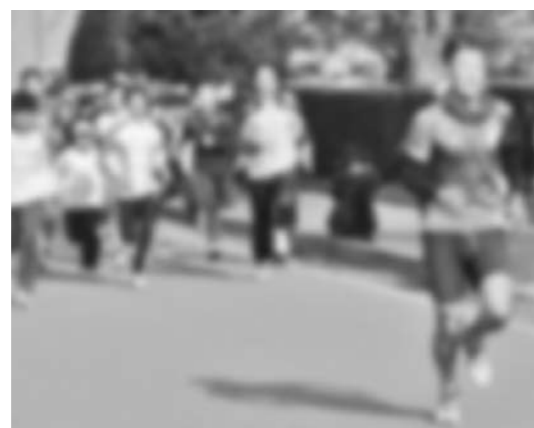
私は一生懸命



丸山 純一さん
安曇野陸上競技協会
駅伝部主将(堀金岩原)

安曇野陸上競技協会の駅伝部主将を務める。情熱を注ぐ長野県縦断駅伝では、長野市から飯田市まで2日間の日程で競う中、15ほどの区間に両日出場するタフガイである。安曇野市駅伝チームの原動力として、2013年の県市町村対抗駅伝では区間2位の走りを見せている。

高校時代は硬式野球に打ち込み、鍛え抜いた体で20代はマラソンにも挑戦したが、現在は駅伝競走を主力に活動している。安曇野市の陸上競技会では5千、1万の優勝経験を持つ健脚である。陸上競技のつながりで市スポー



推進委員に選任され、スポネット常念役員や堀金地域体育協会幹事も兼任している。30代の今も週6日の練習を続け、今宵も颯爽と安曇野の夜風をきって走り抜ける。

4月29日、県市町村対抗駅伝が開かれ、松本広域公園陸上競技場を発着点とする8区間に54チームが出場した。丸山主将率いる安曇野市チームは8位に入賞した。

フラダンスで常夏気分!

みさと



森島もも子講師に学ぶ

三郷公民館は5回にわたる「ハワイアン・フラダンス講座」を初めて開催し、三十数人が参加した。「寒い冬に楽しく汗をかこう!」と1月から始めた講座も、終了後の春にはクラブとして活動を続けている。

農業・食文化を先人から学ぶ

ほりがね



アズミの木型

堀金公民館は「ふるさと常念の里講座」を3回コースで開催し、各回二十数人が参加した。郷土史家の宮下一男さんを講師に「堀金の農業・食文化を支えた人々」の足跡をたどり、故郷に生きた先人に学んだ。



自彊術で健康維持!

まで手がける竹村愛子さんを講師に6年になる。「物を大切にしてきた和の精神を持ち、布のいのちを使い切る。だから、丁寧に心を込めて縫い続ける」と思いを抱く。時には、針供養や花見をして交流を深めている。

自彊術(じきょうじゆつ)とは、自分の健康をできる限り自分で管理するため、31の動きで全身の関節を動かし、筋肉を強くするもの。畳1畳、タオル1枚あればできる、12分ほどの体操。

豊科公民館和室で毎週木曜日の

午後、金曜日の午前には寺島節子先生の丁寧な指導で行っている。老若男女、誰でも楽しみながら健康管理。笑顔が素敵な仲間と一緒に始めてみませんか。

地区公民館だより

熊倉地区公民館

熊倉地区は、豊科高家、北は安曇野インター、南はあづみ野産業団地、西は長野道、東は犀川と広く豊かな田園地帯。昔は犀川が暴れても、熊倉だけは洪水にならなかったという段丘には、春日神社、浅間神社、百体観音のある仏法寺や田淵行男氏のお墓があります。千国街道が通っているだけでなく、松本藩との行き来の要となつた熊倉の渡し跡や、実際に使われていた船も残っていて見どころ満載の地区です。

世帯数約300戸、地区が広いため豊科南小と豊科東小、豊科南中、豊科北中に通う子どもたち。地区PTAや育成会と協力して、数多くの事業を実施しています。春の恒例となつているのは、花壇づくりと地域学習。公民館の花壇に区民総出で花苗を植え、その後地区内を巡って「熊倉歴史研究会」の皆さんから説明を受けます。親子で地区の歴史を学ぶことは、郷土愛につながることが期待されます。今年からは花苗に加えてサツマイモも植え、秋に焼き芋会を行います。7月にはバスを使って東京・高尾へ。武蔵陵墓地で大正天皇、昭和天皇にごあいさつをした後、高尾の「うかい鳥山」で地元料理

に舌鼓。親睦を深めました。また、夏休み前には子どもたちを対象に自転車教室を開いています。

8月の盆踊りでは、わたあめ、水風船などの屋台をそろえて、里帰りしてきた親族と一緒に楽しむ機会となっております。敷地が広いので草の管理は大変ですが、盆踊りには最高です。昨年は大雨のため、公民館内の大広間で楽しみました。9月にはボウリング大会、敬老会を行い、11月の防災訓練では消防署員による救急救命講習や炊き出しを実施しました。12月にはしめ飾りの講習会、1月には繭玉づくりや三九郎と、伝統行事も地区総出で行っています。

館報「くまぐら」は年に一度、昨年は第4号の発行となりました。編集後記にある「福祉や、ささえ愛、きずななどは、熊倉区民の親睦活動の一端から」という言葉が、公民館活動の目指すところであると思います。

(熊倉地区前公民館長 内田 紘)



地区の歴史を学ぶ

グループ紹介

木彫クラブ「彫友会」

彫友会は、昭和58年ごろに行われた公民館活動の木彫講習会が始まりとのことで、三十数年の歴史がある会です。

会は穂高文化協会に所属しており、講師は現代工芸美術家協会本会員の松田富行氏で、月2回の指導を受けています。現在会員は15人、男性6人、女性9人です。

活動としては、文化協会の秋の文化祭に各人のその年に製作した作品を出品していて、会として休まず毎年参加しています。

平成22年秋より穂高会館ロビーに展示パネルが設置され、学芸グループが1ヶ月単位で作品を展示しています。彫友会もそこに年に一度ほど展示しています。

また、市の総合芸術展や、各地区の芸術展等に作品を出品されている方もおり、木彫りを趣味とし、生きがいになつていられるのではと思われまふ。

櫻

里も山も埋め尽くしたという感のする今年の桜は、野に山に里にと美しく咲き誇る。今年の光城山の桜は特に期待に込められているように、麓から山頂へと延びている。

▼新1年生の入学、さらに進学、

「私は絵心がないから」と作品展を見に来た方がときおり話されますが、それは心配無用です。先生がデザインを準備してくれまふ。そして基本を習得すれば、あれもこれも彫りたいと意欲が湧いてきます。

会は穂高会館内プレイルームで第2・第4火曜日の午後1時から4時までの講習です。(見学自由) ●入会ご希望の方 会長 中谷重徳 TEL 72・6101 までお申込みください。



穂高会館内プレイルームでの活動風景

卒業、就職、職場の異動と、桜は嬉しさと緊張を安曇野の野に運んで来てくれた。しかし、消費税8パーセント後の日々の暮らし向きの事を考えると、花の色が遠ざかっていく。